

沈黙に向き入り

沖繩戦聞き取り47年

石原 昌家

去る9月4日、日本キリである。本連載の第80回(8
スト教団主催で「援護法と 月26日掲載)は、日本軍の
沖繩」という標題のオンラ 久米島住民虐殺事件を列記
イン講演を依頼された。0 したところだったので、驚
感児を含む一般住民を沖繩 意を新たにしたい。

「戦闘参加者」扱いす
る「戦闘参加者概況表」を
改めて見直した。

それは沖繩島の援護隊が 事例にまとめた「概況表」
作成した形だが、日本政府 の18事例目は「スパイ嫌疑
が沖繩戦体験をどのように による斬殺になつてい
把握しているかという事実 発生地として伊江島、豊見
上の公式記録であり、沖繩 城、今帰仁、玉城と並んで
住民にとって、肝要な資料 久米島もあげている。その



天皇メッセージについて詳しく1979年1月1日付の琉球新聞掲載

(90)

上、米軍による射殺(全篇 昭二〇、六、一八日高橋村
地域)もあげている。 真栄里においてバックナー
そして「スパイ嫌疑の斬 殺は、日本軍によって行わ
れたものと、米軍によって
斬殺されたものの二つがあ
る」と指摘し、以下のように
に続く。

平和祈念資料館問題(23)

背景知り戦争体験継承を 大局的資料が不可欠

て日本軍陣地やつてきた 住民を斬殺したもの。(ロ) 米軍に拉致された住民が一
回解放(帰宅)を許され部 落に帰つて来た者を日本軍
が其の人名を調べ斬殺した もの。(ハ) 友軍陣地をう
るついたためにスパイ嫌疑 をうけ斬殺されたもの。
(ニ) かつては米軍に居住 した事のある者で英語が話
せるためにスパイの嫌疑を うけて斬殺されたもの。

鹿山隊の文書を見ると、 特記しておきたい。
犠牲者が戦闘参加者扱いさ されたうえで、諸国神社の祭
神として祀られていること も特に念頭に置いていただ
きたい。

天皇メッセージ

沖繩平和祈念資料館で は、個人個人の戦争体験を映
像と文字による証言で確認 できる。それぞれの体験を
局所的と表現するなら、そ れを裏付ける大局的な史料
を本連載の第87回(7月21 証言衝撃の内容だ。

日擲戦の(ロ)から(ニ)まで みてきており、その最後が
の「天皇メッセージ」で ある。ところが、これまで
58年段階で、日本軍の住民 虐殺を具体的に知つたうえ
で、犠牲者を戦闘参加者と して認定するという捏造を
あからさまに行つてきた。
(一) 項を改めて詳述する。
参観者は平和祈念資料館の 「住民犠牲者の諸相」ローナ
いうことを参観者のために

建設するために強行したも のだが、天皇陛下が沖繩を
はじめ琉球の他の諸島を来 国の軍事占領し続けること
を希望していた」が、リー ド記事の一部である。

記事の本文では、宮内庁 御用筆の寺崎英成氏が天皇 の意向を米国に伝えた内容
である「マッカーサー元帥 のための覚え書」(1947年9月20日付)が以下の
ように引用されている。
(寺崎が述べるに天皇は、
アメリカが沖繩をはじめ琉 球の他の諸島を軍事上領し
続けることを希望してい る。天皇の意向によると、
その占領はアメリカの利益 にもなる。天皇が思うにそ
うした政策は、日本国民が
ロシアの脅威を恐れている
ばかりでなく、左右両翼の
集団が台頭し、ロシアが
事件を引き起こし、そ
れを口実に日本内政に干渉
してくる事態を恐れている
が故に、国民の広範な承
認を勝ち取ることができ
る。)

この「天皇メッセージ」 を連載第87回(7月21日掲 載)の「近衛上奏文」と含
ませて読むと、天皇は「一 日も遅やかに戦争終結の方
途を講ずべき」という近衛 元首相の進言は拒んだが、
「最も憂ふるべきは、敗戦 よりも敗戦に伴つて起る
ことあるべき共産革命な り」という進言は、戦後取
り入れていたことが分か
る。
現在、戦争体験の記録は 新聞社や各市町村史など
によつても累積されてい
るが、それを裏付ける大局的 資料を突きつけては、真
の体験継承にはならない
のが、以上の歴史資料
のコンピラトだった。
次回(9月28日掲載)